

胃カメラ

皆さん、「胃カメラ」と聞くと胃の検査とお思いになるでしょうが、これは半分正解ですが、半分は間違いです。実は、胃カメラの検査では、胃だけでなく、食道や十二指腸も含めた「上部消化管」と言われる範囲全体を見えています。今日は特に、胃カメラで食道の検査を、というオススメです。

喉の奥から胃までをつなぐ「食道」は、約 30～40 c m の管で、ガンや炎症などの病気が発生する可能性があります。特に、最近非常に増えているのが、「逆流性食道炎」という病気です。これは、胃酸が胃から食道に逆流することによって食道の粘膜がただれ、その結果胸やけや胸の痛み・げっぷなど不快な症状が生じる病気です。胸の痛みがあり、心臓の病気だと思っていたら逆流性食道炎だった、というのはよくある話です。また、夜間横になると胃酸が逆流して気管に流れ込み、咳き込んで目覚める方もおられます。夜間の頑固な咳が、肺の病気ではなくて実は胃酸の逆流が原因だった、という事も多いのです。

逆流性食道炎は、最近では非常に有効なお薬があり、内服治療で症状は劇的に改善します。この文を読んで思い当たる事のある方、一度診察で相談されたいかがでしょう。

